

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3893600043
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム早雲
所在地	愛媛県喜多郡内子町大瀬中央5 6 6 2 番 2
自己評価作成日	平成26年9月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

内子町大瀬の、のどかな自然の中木造建築の建物がひととき引き立ちます。ご近所の皆様に暖かく見守って頂きながら地域に根差すグループホームを目指しています。毎朝元気にリハビリ体操を行っています。日常生活において、掃除、調理や洗濯など、それぞれが得意とする事に対し役割を持っていただき、自然に本人の意欲を引き出しています。今年は、大瀬小学校4年生との交流も始まり、地域との結び付きが深まり中野サロンの方々にも心よく協力してもらいました。行事の時の家族様の踊りは利用者の皆様にとって楽しみの1つとなりました。また、利用者様がその月にあった事を忘れないように壁新聞を利用者様と一緒に作成、来訪者の評判も良く壁新聞を楽しみにして頂いています。職員はスキルアップ希望者の研修に快く協力、職員の育成、レベルアップを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

今年度より、併設グループホームと合同で、大瀬小学校4年生8人との交流が始まり、年間計画のもと、利用者は一緒に花を植えたり、七夕飾り作りや、祭り時期には神輿を子供達と相談しながら作成された。神輿は「青葉台みこし」と命名し、祭り時には近所の子供が周辺を練り歩き、利用者もたいへん喜ばれた。近隣の方の提案で、春には、団地入口の花壇に雛壇を作り、利用者はかまぼこ板に雛人形を描いて飾り付けに協力された。十五夜には、近所の小学生がススキを取って来てくれて、利用者はお月見の気分を楽しまれた。地区活動の道作りには、毎回必ず職員が参加される。又、近くの就農者研修住宅の方から野菜のお裾分けがあり、管理者は「地域との交流が大きな支えとなっている」と話しておられた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム早雲

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

森本あけみ

評価完了日

H26年 9月 17日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域理念を作り、地域との交流をはかるため、行事を計画実行、職員は理念を理解し実践につなげている。地域の行事(祭り)などに参加、小学校との交流などを通し地域の一員として過ごす事が出来ている。 フロア理念を「尊敬、信頼、傾聴」に変更し、初心に戻るよう心がけています。	
			(外部評価) 管理者は、利用者の状況が変化する中で、職員の利用者への対応に迷いが出始めていると感じ、半年前に「みんなが目指すケアは何か」をテーマに話し合い、理念を見直された。理念は、居間に掲示されている。法人を通じて、地域の方から「職員の利用者への言葉かけ」について意見があったことを機に、ミーティング時に理念に立ち戻りながら改善に向け話し合われた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の情報を知るため回覧板を回してもらったり、地域行事の農業祭や秋祭りに参加をしている。また、ホームで計画した行事にご近所の方が参加して下さいます。地域のサロンの方たちや大瀬小学校との交流も行っています。また、地域の要請により道作りやスポーツ大会に職員が参加しています。	
			(外部評価) 今年度より、併設グループホームと合同で、大瀬小学校4年生8人との交流が始まり、年間計画のもと、利用者は一緒に花を植えたり、七夕飾り作りや、祭り時期には神輿を子供達と相談しながら作成された。神輿は「青葉台みこし」と命名し、祭り時には近所の子供が周辺を練り歩き、利用者もたいへん喜ばれた。近隣の方の提案で、春には、団地入口の花壇に雛壇を作り、利用者はかまぼこ板に雛人形を描いて飾り付けに協力された。十五夜には、近所の小学生がススキを取って来てくれて、利用者はお月見の気分を楽しまれた。地区活動の道作りには、毎回必ず職員が参加される。又、近くの就農者研修住宅の方から野菜のお裾分けがあり、管理者は「地域との交流が大きな支えとなっている」と話しておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 今年度は看取りの講演会を地域のグループホームの方たちと行い、家族や地域の方も参加して頂けました。また、大瀬中学校と大洲農業高校の福祉体験や小田高校のインターシップの受け入れもできた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 定期的に運営推進会議を行い、職員やご家族、自治会長や区長ご近所の方に参加して頂き、行事や入所者の情報を伝え意見などをきいている。また、自己評価や外部評価を行う事を伝え改善策なども報告して意見を聞いている。観月会では一緒に食事をし交流を深めています。また、今年は家族様全員に観月会への参加を呼びかけました。</p> <p>(外部評価) 会議は、併設グループホームと合同で行っており、近隣のお宅の方5名も毎回参加されている。今年度から交流がある小学4年の担任の先生も参加しており、事業所の取組みを知ってもらう機会となっている。会議は、参加者からの希望で、19時半開始に変更された。会議では、行事や利用者の状況を報告し、地域の方からは行事参加の依頼等がある。7月には消防署員による救命救急講習を行い、ご家族が代表して体験し、「思った以上に大変で、貴重な体験が出来た」と感想を述べられた。管理者は今後、関わりのある業者に参加を依頼してみたいと話しておられた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、情報を共有している。事故報告書の提出やケアプランの提出をし、取組みを伝えている。また、町内のグループホーム管理者が会合を行っています。必要時は内子町の担当職員から情報を受けるときもある。介護相談員の受け入れにも応じた。</p> <p>(外部評価) 介護報酬改定時には、町職員から運営推進会議で説明があった。グループホーム連絡会は、場所を持ち回りで月1回開催し、情報交換を行っている。内子町では、介護相談員事業を開始しており、8月には事業所でも受け入れをされた。当日は、2名の相談員が3名の利用者とお話をされた。利用者は自分の思いを話す機会になったようで、管理者は「話してスッキリされたようだ。今後も依頼があれば受け入れたい。」と話しておられた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束が何故いけないのか研修に参加したり、全員での勉強会を行い、身体拘束をしない、日中は玄関に鍵をかけたままのケアを行っている。</p> <p>(外部評価) 玄関は施錠せず、自由に出入りできるようになっている。日向ぼっこ好きな方は、お天気の良い時等に、居間からデッキに出て、椅子に腰かけ過ごされる。「家に帰りたい」という方には、職員が付き添って事業所の周囲を散歩したり、併設グループホームに立ち寄ってみる等して気分転換できるよう支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修にて虐待について勉強し、管理者、職員は理解を深めた。それぞれの行動に注意をし、気になる事があると声をかけあっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用している人があり、どのような方が制度を利用しているか理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居希望時に見学していただき、ホームを理解してもらい、重要事項の説明をしている。入居契約時にも説明をし納得していただいているから契約をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時や毎月の新聞で職員から声かけをし生活の様子が分かるように伝えている。利用者様にも希望等ないか確認をしている。運営推進会議に家族の参加があり、話の出来る機会を作っている。3月に家族会を行い昼食を一緒に食べ、8月には夕涼み会を行い職員と交流をし、気軽に話が出来る関係を築いている。 (外部評価) 3月の家族会には2家族の参加があり、一緒にいなり寿司を作って昼食をともにされた。内子町グループホーム運動会には、2家族が競技に出場され、9月の芋炊き会には3家族の参加があった。管理者は、さらに多くのご家族が参加できるよう、行事内容や時期を検討したいと話しておられた。毎月の事業所へは、担当者が利用者の日々の様子を記入し、ご家族に送付されている。	家族会や運営推進会議にて、ご家族の意見を聞く場を設けているが、現在は参加者が限られているようだ。ご家族が事業所の活動にかかわる機会を増やして、事業所サービスへの意見や要望を引き出ししていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>管理者会議にて意見を出す事ができる。行事の企画は部長に確認してもらっており、職員の提案で行事を行うことができる。業務カンファレンスを行い、職員の意見を聞く機会を設けている。また、ケアカンファレンスでも気軽に意見を話し合える機会を設けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所は、職員の資格取得を積極的に支援しており、初任者研修や介護福祉士の実技の勉強に取り組んでいる職員もある。又、外部研修も可能な限り参加できるようにサポートされている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>向上心を持って働ける様、施設長やホーム長、副ホーム長の役職があり手当が付く。資格手当もあり、向上心を持って働けるよう整備している。職員7名になって安心して働けるようになったが環境整備は大切である。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>初任者研修に参加している職員がおり、会社が奨励している。機会があるごとに研修に参加している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>管理者は社内において管理者会議があり、情報の交換、共有している。また、内子町のGH連絡会においても情報交換と共有を行っており、職員間も勉強会を行いサービス向上に結び付けている。隣の慶雲とは常に情報交換しており、合同の勉強会も行っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様と話す機会をつくり、不安や希望を聞き、職員と利用者様との信頼関係を築いてケアプラン作りにいかしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 見学者や入所希望者に対して、何に困っているか、不安なことは何か聞き、ホームについての説明を行っている。入居時には、在宅中の様子を聞き、介護の大変さを理解し、信頼して頂ける様に努めている。また、事前調査と入居時に家族の希望を伺っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の希望を聞き対応しています。訪問診療と必要時受診介助をしています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様一人ひとりが能力に合った役割を持って生活をしているが認知が進み役割が出来なくなってきた人もおられる。また、お互いに協力したり、利用者様同士で声をかけ合い良い関係が出来る様に、仲に入り支え合う関係が出来つつある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 定期的に家族が訪問し、自室にてお話してくつろいで頂いたり、行事に家族と共に参加し、一緒に過ごして頂いています。家族の方と一緒に外出される方もおられます。また、家族様の協力により外泊支援を続けたい。面会時には、本人の好物を持参してもらっています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力を得て、本人の行きたい所へ連れて行って頂いたり、自宅への外出等ができています。また、ホームから本人の馴染みの場所への外出も行っています。お孫さんやひ孫さんの面会もあります。	
			(外部評価) 職員は、「家に帰りたい」と言われる方と一緒にご自宅近くを散歩したり、池で白鳥を見たりできるよう支援しており、ご本人は「よかった」と満足されるようだ。近くで行われる地域の農業祭やスーパーに出かけると、利用者を知っている方から声をかけてもらうこともよくある。ご家族が利用者のひ孫を連れて来られることもあり、ホーム内で遊ぶ様子を見て他利用者も喜ばれるようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) フロアでテーブルを囲むように座り過ぎて頂いています。気の合った利用者様同士が座ったり、お互いの意見を尊重し理解しあえるよう声かけをしながら支え合うように支援を行っている。また、お互いが体を気遣って声を掛け合ったり、体を擦ってあげてたり、声かけをし手をつなぎあったりされています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去者には他施設に入所される時に退所時の情報提供を行った。また、退所後の様子をご家族様から聞くことができた。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望を聞き、困難な場合には行動から判断している。本人の思いシートを作成し活用出来ている。また、家族様からの情報をえることもでき、介護計画に取り入れることが出来た。重度化及び緊急時の対応の希望を取っている。また、定期的に希望の取り直しも行っている。 (外部評価) 今年、ご家族に「本人の思いシート」を記入してもらうことに取り組みされた。又、職員が知り得た「したいこと」「出来ること」等の情報も記入して、利用者の思いを探り、介護計画につなげておられる。職員は、利用者の思いを引き出せるように、若い頃のお話が聴けるように会話に工夫されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今までの暮らしを家族や本人から聞き情報を得るようにしている。他のサービスを利用していた場合は、そこから情報を提供して頂いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの1日の行動や言動をよく観察し、情報を共有したり見守りをしたりしている。ケアカンファレンスで昼夜逆転についても話し合っている。対応困難になっている利用者様の様子と対応方法についてよく話し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎日の介護記録でその日のケアプラン実行記録を残している。利用者個々の担当職員が2ヶ月間モニタリングを行い、3ヶ月ごとに職員全員で見直しを行っている。家族様の訪問時や電話にて介護計画を説明して、要望や意見をお聞きしている。</p> <p>(外部評価) 介護計画の支援内容に番号を振っており、日々の介護記録と連動するような仕組みを作っておられる。毎月、担当者がまとめモニタリングして、3ヶ月毎にケアカンファレンスを行い、計画の見直しを行っておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別の介護記録や経過観察記録等毎日の行動を記録し、申し送りやケアカンファレンス等により情報を共有し、どのようにしたら良いケアが行えるかを考え実践し介護計画の見直しに活かしています。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 神南診療所との医療連携体制があり、医療連携ナースとも連携しているが、サービスの多機能化は特にありません。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域サロンと交流を行っており、同世代の方とのいもち作りや年末の餅つきを楽しみにされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 現在は家族の希望により、神南診療所を全員主治医とされています。眼科は本人のかかりつけ医を継続しており受診支援をしています。また、歯科は協力医を受診しております。療養マッサージを利用されている方もおられます。整形外科受診急性期は家族が対応され、安定期はホームで対応している。</p> <p>(外部評価) 主治医が往診に事業所を訪れる日が増えたことで、利用者の体調等について相談も頻繁にできるようになり、職員は心強さを感じておられる。又、週1回、法人内の看護師が来られ、利用者の健康管理をされている。希望により療養マッサージを受けており、浮腫の強い方はオイルマッサージをしてもらっている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 定期的に医療連携ナースの訪問があり、職員がその都度利用者の様子を報告して指示を受けている。また、電話連絡により相談し、指示を受けている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) サマリーなどで情報交換し、入院中や退院時の情報をとっています。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 契約時にグループホームにおいて看取りまで出来ることを説明して重度化、終末期の指針も説明し、家族の希望をその都度聞き、支援できるようにしています。利用者一人ひとりに思いや希望を聞き、本人の意向を話していくれた入所者様もいました。食欲不振を家族に報告して面会を増やしていただいたり、好きな物を持って来ていただいている。</p> <p>(外部評価) 利用契約時には、ほとんどのご家族が「最後は病院で」と希望されるようだ。今年、「本人の思いシート」を用いて、終末期の意向についてご家族の思いや考えを聞き取りされた。ご家族からは、「痛みや苦痛は出来るだけ抑えて欲しい、救急搬送を希望、心臓マッサージして欲しい、酸素吸入はして欲しいがそれ以上は望まない、病状に応じて終末期の場を選びたい」等、具体的な希望が聞けたようだ。利用者の中には、「最後は病院で」と希望する方もいる。町のグループホーム連絡会で行った「看取りについて」の研修には、職員2名が参加され、看取り支援にはご家族の協力が大切なことを学ばれた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 体調急変者が出た場合や転倒時にはバイタルチェックを行ない冷静に対応出来ている。 今年度は社内研修にて救命講習を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に近隣住民と共に訓練を行っており、参加者全員で反省会を行い、災害対策に対し協力をしていただける関係を築いている。また、地震からの火災を想定しての避難訓練、けむり体験や消火訓練を入所者様と共に行った。夜間想定での訓練したり、消火栓使用方法の指導を受けた。	
			(外部評価) 5月に消防立ち合いの下、併設グループホームや近隣者と一緒に昼間想定での火災訓練を実施された際には、居室入口に設置した「確認済」のカードが活用できなかったり、戸の閉め忘れがあった等の課題が残ったようだ。最近、近隣で火事が発生したことをきっかけに、近所の方達と一緒に消火栓使用方法を確認された。地震に備えて各居室の洋服ダンスには突っ張り棒を付けておられた。備蓄は水、おかゆ、ガスボンベを準備している。11月には夜間想定での火災訓練を実施する予定になっている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりのプライバシーを尊重し、プライドを傷つけないように言葉使いにも気を付け対応している。居室にて一人で過ごす事が出来て一人の時間が作れプライバシーを守っている。	
			(外部評価) 人生の先輩である利用者に対しての言葉がけには注意を払い、「会話はくだけすぎないよう心がける」等、職員同士が話し合っておられる。利用者の呼び方は、名前の方が馴染みがあって良い方もある。訪問調査時には、前日まで体調をくずしていた利用者、職員や他利用者が「元気になって良かったね」「ご飯も食べられて良かった」と声を掛けておられた。地域に配布する新聞には利用者の名前は載せないようにしており、写真の掲載は事前にご家族に了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、本人の思いや希望を職員に気軽に話して頂ける様声かけし接していくよう努め、本人の希望等にそえるようつとめています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの一日のペースを把握し、できる事やしてみたい事に声かけし支援をしている。利用者様からあまり希望がなくなったが希望があることは支援出来るようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人が着たい服を自由に選び着て頂いている。出張美容を利用しカット、パーマ、顔そりをしていただき、化粧を希望される方には支援している。衣類の調整は本人の希望にそって行っている。おっしやれが自分で出来なくなった方たちの支援を行なっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好きな食べ物、嫌いな食べ物を知り、色どりなど盛り付けにも工夫を凝らし食欲が出る様努めている。もやしの根とりや豆にすじ取り、食器拭きにも声かけをし利用者の皆さんが協力して手伝って頂いている。ホームで取れたゴーヤやミニトマトを利用して調理する事もある。干柿作りや梅酒作りを利用者の皆さんと一緒に行いました。	
			(外部評価) 併設グループホームの献立委員が1ヶ月分の献立を作っており、事業所で少し変更をすることもある。お誕生日には利用者の好きな献立にされている。畑で採れた野菜やいただき物の食材を使用する折には、「ゴーヤが出来たから煮てみたよ」「○○さんから頂いたよ」等、エピソードを添えて食材を味わえるよう支援されている。育てているゴーヤの成長を見て利用者が「できとるよ」と教えてくれることもあるようだ。お酒の好きな方は、時々コップ1杯の晩酌を嗜まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量を理解しおかゆ、刻み食、トロミ食などそれぞれの利用者様にあった盛り付けを行い、摂取量の記録や好みの飲み物を理解し必要量が取れるように支援しています。また、病気にあった味付けを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事後声掛けし口腔内の清潔保持に努めています。また、1人で出来ない方に対しては職員が声掛けや誘導等の介助を行い、一人ひとりに合った口腔ケアを行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの排泄パターンや行動を知り、それぞれの方に合った排泄支援を行っています。夜間の睡眠確保のためパットやリハビリパンツの種類を変えている。また、身体的な理由からオムツでしか排泄出来ない人に対し時間での排泄対応し、家族の負担を軽減した。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の動きを察知して、トイレ誘導につなげておられる。トイレでの排泄が難しい方から、「パッドを頻繁に替えてほしい」と訴えがあったが、パッドにかかる費用も考慮して、日中の過ごし方を見直し、手作業(貼り絵)に参加する時間を持つようにして、集中することで意識を逸らし、パッド交換の回数を減らすことができたケースがある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>毎日、排便の回数を記録し便秘がみられる利用者には水分を多めに摂って頂いたり、運動の声かけを行っています。強い便秘のみられる利用者には主治医と相談し、薬を処方して頂き対応しています。食事にも工夫し繊維質のものを摂って頂ける様にしています。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>毎日入浴できるようにしているが、行事等がある場合は2日～3日で入浴できるように支援しています。また、希望を聞き、午前と午後に入浴出来るようになった。夏場はシャワー浴にされる方もあります。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者個々に週2～3回入浴できるように支援されている。「午前中に入る方が体調が良い」という利用者には、午前中に入浴できるよう支援されている。入浴に気がすすまない方には、早めに伝えず、入る直前に誘うと入浴につながるようだ。身体的な理由で浴槽に入れられない方は、シャワー浴で対応するが、それ以外の方は湯船で温まれるよう支援されている。入浴時に歌を歌う方もいる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>日中でもお部屋で休んでもらうようにしています。夜間は、一人ひとりのリズムで休んでいただき不眠時には話をしたり飲み物を進めるなど安心してもらえるよう対応しています。眠剤を利用される方が増えてきた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服薬への支援をしている。使用している薬が何の病気の薬か理解している。服薬表の整備を行い、副作用などの理解をするよう努力している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりが出来る事を把握し、それに合った支援をし役割を担ってもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりのその日の体調に合わせてホームの周囲を散歩したり日光浴ができるように支援しています。また、月に1~2度は内子、大洲などへ買い物に出かけ気分転換を図ってもらっている。地域行事(運動会・保育所訪問)等にも出かけて地域の方々と触れ合っている。小田のせせらぎ亭にうどんを食べに行った。小田スバル(社協)で車いすを借り、店の対応も良かった。 (外部評価) 日常的に近所を散歩されている。外食には全員で出かけており、中には食べやすい器やスプーンを準備してくれる店もあるようだ。地域の農業祭に出かけた方は、ご自分が選んで柿や鮎の塩焼きを購入し、喜ばれた。内子のスーパーは、よく利用することで車いすを備えたり、休憩コーナーを設ける等、利用しやすいよう環境整備をしてくれている。5月にはお弁当を持って、富士山につつじを見に行き、普段とは違う利用者の表情や笑顔もみられたようだ。管理者は「時期を選び、目で見て楽しめる外出をしたい」と話しておられた。来年の初詣に全員で出かけられるよう、場所を選定中であった。	今後さらに利用者一人ひとりの懐かしい場所や馴染みの場所を探り、個々の希望に沿った外出支援にも工夫されてはどうだろうか。ご家族等とも相談しながら取り組まれてはどうだろうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の理解の上で少額のお金を自分で管理している人もいる。買い物外出時には、自分で支払いができるように援助している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の取次ぎ、本人の希望があれば対応している。携帯電話を所持している方もいらっしゃいます。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用空間において自由に行動して頂いており、冷暖房を必要に応じて使用し快適にホーム内で過ごして頂いています。季節ごとの花を飾ったり、利用者の方と一緒に季節感のあるちぎり絵を作成してフロア内に展示しています。裏庭の畑にゴーヤや花を植えています。デッキに出て見ることが出来ました。</p> <p>(外部評価) 事業所の入口花壇にはパンジーの植え込みがあり、玄関先には大瀬小学校の4年生と作成した「青葉台みこし」を飾っておられた。又、観葉植物が各所に配されていた。居間には、畳コーナーがあり、腰を掛けたり、食事時に使用されている。利用者と職員が時間をかけて作った畳半畳サイズの貼り絵の大作が壁に飾られていた。行事等を忘れないようにと、利用者と一緒に作成している壁新聞は、時々みて会話のきっかけにされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 畳で過ごして頂いたり、台所に誘ったり、共用空間に居ながら少しはなれる事ができるように対応しています。気の合う人がとりに来るような配慮をしています。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人が馴染みのある物を持ち込んでいただけるようにしている。住み慣れた部屋のようにして居心地のいい居室になるように、見慣れた物をかざり生活感があるように工夫しています。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、利用者が自室を案内してくださった。楽しみにしている予定をメモに書いて壁に貼ったり、お孫さんからの米寿のお祝いの色紙を飾っており、家族写真を見て指さしながら続き柄等も合わせて紹介してくださった。お花が好きな方は造花をたくさん飾っておられた。夜間、入口ドアの小窓から入る光が気になる方には、すりガラス部分に目張りをしていた。各部屋にタンス、洗面台を備え付けてあり、整容道具が置かれていた。テレビや机、衣装ケース等を持ち込まれている方もみられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレがわかる様に表示したり、一人でも移動、行動できるように工夫している。建物内はバリアフリーになっている。車いすやシルバーカーを使い1人で行動出来ている。高度の認知の方が住み慣れた事で自分の席が分かっており、1人で自分の席に座ることがある。</p>	